

論文要旨

Overexpression of survivin in primary ATL cells and sodium arsenite induces apoptosis by down-regulating survivin expression in ATL cell lines

成人T細胞白血病におけるsurvivinの過剰発現と
ヒ素はsurvivinの発現レベルを低下させ、ATL
細胞のアポトーシスを誘導する

車 晓芳

【序論および目的】

成人T細胞白血病(Adult T-cell Leukemia-Lymphoma, ATL)は、ヒトT細胞白血病ウイルスI型(human T-cell leukemia virus type I, HTLV-I)の感染でCD4陽性T細胞の腫瘍性増殖を特徴とする疾患である。ATLは治療抵抗性が高いため予後は極めて悪い。ATLの薬剤耐性はP-gp、MRP1、LRPなどの発現との関係が知られているが、アポトーシス抵抗性も一つの要因と考えている。新しい治療法の開発は、ATL治療にとって重要である。我々はATLにおけるアポトーシス抑制因子を調べた上で、新しい治療法のヒ素のATL細胞のアポトーシス誘導のメカニズムを解明した。

【材料および方法】

1. 我々はATL 38症例(急性型ATL 23、慢性型ATL 12とくすぶり型ATL 3例)と健常人17人の末梢血単核球から抽出したRNAを用いて、Real-time PCR法でIAPファミリーのSurvivin、IAP-1とXIAPのmRNAレベルを調べた。
2. ATL細胞株S1T、MT2とリンパ球白血病細胞株Jurkatのヒ素に対する感受性をMTT Assayで測定した。
3. 各濃度のヒ素の存在下で、S1T、MT2とJurkat細胞の増殖を5日間または7日間連続的にMTT Assayで測定した。
4. S1T、MT2とJurkat細胞を各濃度のヒ素で3日間連続処理し、FACSでSubG1を測定し、アポトーシスを評価した。
5. S1TとMT2細胞をヒ素で処理し、caspase 3の活性をmicroplate fluorescence

reader で測定した。

6. S1T、MT2 と Jurkat 細胞を各濃度のヒ素で処理し、Western Blot により survivin、bcl-2、PARP などの蛋白レベルを調べた。
7. S1T と Jurkat 細胞を各濃度のヒ素で処理し、RT-PCR により survivin の RNA レベルを調べた。
8. S1T と MT2 細胞をヒ素で処理した後、細胞質と核を分画し、NF- κ B の P65 と P50、I κ B α の蛋白レベルを調べた。

【結 果】

1. 健常人由来の T 細胞に比べ、ATL 細胞のほうが、survivin の mRNA 量は有意に高かった ($p<0.01$)。急性型 ATL は、慢性型とくすぶり型 ATL と比べて、survivin の mRNA 量が有意に高かった ($p<0.05$)。Performance status (PS) 3 - 4 の ATL は PS 1 - 2 の ATL より survivin の発現が高かった ($p<0.05$)。IAP ファミリーの IAP1、IAP2、XIAP は、ATL と健常人の間で有意差が見られなかった。
2. ATL 細胞 MT2 と S1T は、Jurkat 細胞と比べてヒ素に対する感受性が高かった。
3. ヒ素は MT2 と S1T 細胞の増殖を濃度と時間依存的に抑制した。
4. ヒ素は MT2 と S1T 細胞のアポトーシスを濃度と時間依存的に誘導した。
5. ヒ素は濃度と時間依存的に MT2 と S1T 細胞の Caspase 3 を活性化した。
6. ヒ素は濃度と時間依存的に MT2 と S1T 細胞の Survivin 蛋白発現を抑制した。
7. ヒ素は濃度と時間依存的に S1T 細胞の Survivin RNA 発現を抑制した。
8. ヒ素は MT2 と S1T 細胞で NF- κ B (P65) の核移行を抑制した。

【結論及び考察】

1. Survivin は ATL に高発現し、抗癌剤治療抵抗性の重要な因子である。
2. ヒ素は ATL 細胞株 S1T のアポトーシスを誘導する。
3. ヒ素は ATL 細胞株の survivin 発現を低下させる。
4. ヒ素は ATL 細胞株の NF- κ B (P65) の核移行を抑制する。
5. ATL 細胞においては、ヒ素は NF- κ B の核移行を抑制することによって、Survivin の発現を低下させ、アポトーシスを誘導する。